



Title	吐魯番出土文物研究会会報 第84号
Author(s)	
Citation	吐魯番出土文物研究会会報. 1993, 84, p. 1-6
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/78895
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

吐魯番出土文物研究会会報

第84号

1993年1月1日
吐魯番出土文物研究会

■ 目 次 ■

＜目録＞	『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』総目次（Ⅲ）……	片山章雄編	1
＜雑纂＞	旅順博物館所蔵品展覧え書……………	片山章雄	3

『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』総目次（Ⅲ）

片山章雄編

【はじめに】

本総目次（Ⅲ）は、第19号に掲載した、総第1期（1984年第1期）から総第15期（1988年第2期）までの「総目次」、第52号に掲載した総第16期（1989年第1期）から総第18期（1990年第1期）までの「総目次（Ⅱ）」に続くものであり、総目次としての体裁は前二篇と全く同じである。なお、專輯総第19期は小A5判で、単行の中国敦煌吐魯番学会主編、盧善煥・師勤編『中国敦煌吐魯番学著述資料目録索引（1909-1984）』（人文叢刊第九輯、中国敦煌吐魯番学資料叢書）、1985年8月、1+2+317頁、の続編にあたるもの（リプリント版があるらしい）。総第20期以降は判型がB5よりやや大きく不揃いとなっている。

【『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』総目次（Ⅲ）】

■（1990年第2期）＝專輯総第19期／1990年10月	
中国敦煌吐魯番学会主編／師勤編『中国敦煌吐魯番学著述資料目録索引続編（1985-1989）』（中国敦煌吐魯番学資料叢書）	2+194+1頁
■1991年第1期（総第20期）／1991年6月	64頁
「目録」	（表1）
方広錫「関于敦煌遺書之分類」	（1～16頁）
〔法〕梅弘理／耿升訳「敦煌的宗教活動与断代写本」	（17～23頁）
〔法〕戴仁／郭鋒・黄雯訳「敦煌中世写本与書の歴史」	（24～26頁）
劉瑞明「《敦煌变文選注》評析」	（27～36頁）
李農「中国吐魯番学学会簡介」	（37～38、26頁）
卞孝萱「弘揚愛国主義精神的《敦煌民俗学》」（方蘇）「《敦煌变文集校議》出版」	（39～42頁）（42頁）
孟乃昌・閻万鈞「《敦煌学目録初探》読后」（楊宝玉）「《英藏敦煌文献》簡介」	（43～44頁）（45頁）
（辛夷）「《敦煌文学》出版」（史進）「《敦煌古俗与民俗流变》出版」	（45～46頁）（46頁）

(文丁)「《秦婦吟研究彙錄》出版」	(46~47頁)
(文丁)「《王梵志詩研究彙錄》出版」	(47頁)
師勤・加依肯「一九九〇年敦煌吐魯番學著述資料目錄」	(48~64頁)
■ 1991年第2期(總第21期)／1991年12月	68頁
「目錄」	(表1)
榮新江「龍谷大學圖書館藏敦煌西域文獻及研究狀況」	(1~7頁)
[日]小田義久／孫曉林訳「大谷文書概観－以文書來源為中心的介紹」	(8~15頁)
楊萃「《中國所藏“大谷收集品”概況－特別以敦煌寫經為中心》簡介」	(16, 15頁)
(沙虹駿[沙知・柴劍虹・齊陳駿])「中國敦煌吐魯番學會代表團應邀訪蘇」	(17~18頁)
張弘「敦煌講經文叙錄」	(19~29, 7頁)
吳偉・黃征「《敦煌願文集》在輯校中」	(30~35頁)
楊寶玉「敦煌本《感應記》資料及研究綜述」	(36~41頁)
[日]金岡照光／徐冬芹訳「敦煌文學中的韻文体」	(42~52頁)
西煌「西北師大敦煌所協助西北各地修志」	(53~54頁)
(趙和平)「《魏晉南北朝史論集統編》即將出版」	(54頁)
文玉「《敦煌學述論》簡介」	(55頁)
(牛汝極)「一部描寫元代維吾爾社會經濟文書的力著－介紹《13-14世紀西域回鶻文世俗文書導論》」	(55~56頁)
師勤「1984-1990年敦煌吐魯番學著述資料目錄索引補遺」	(57~68頁)
■ 1992年第1期(總第22期)／1992年6月	52頁
「目錄」	(表1)
楊寶玉「1991年敦煌吐魯番學研究綜述」	(1~10頁)
[法]戴密微／耿升訳「敦煌變文與胡族習俗」	(10~15頁)
朱彤「敦煌本《破魔變文》時代考辯」	(15~19頁)
(趙明)「中國敦煌吐魯番學會顧問任中敏教授在揚州病逝」	(20頁)
任二北遺作「解三醒庚申(一九八〇年)南歸遺興五首」	(20~21頁)
饒宗頤「水調歌頭」	(21頁)
王文才「水調歌頭」	(21頁)
尚林「台北中央圖書館藏敦煌遺書目錄編號互見」	(22~29頁)
侯燦「友好交往 再訪扶桑－赴日學術考察紀要」	(30~32頁)
(先堂)「甘肅敦煌學學會成立大會在蘭州舉行」	(32~33頁)
(一麟)「《敦煌碑銘贊輯》簡介」	(33頁)
(北京圖書館敦煌吐魯番學資料中心)「“敦煌學報告座談會”在京舉行」	(33~34頁)
師勤・加依肯「一九九一年敦煌吐魯番學著述資料目錄」	(34~52頁)
■ 1992年第2期(總第23期)＝一九九二年敦煌吐魯番學國際學術討論會 專輯／1992年12月	42頁
「目錄」	(表1~2)
「一九九二年敦煌吐魯番學國際學術討論會紀要」	(1~5頁)
「季羨林會長致開幕詞」	(5~6頁)
「學會顧問周林在開幕式上講話」	(6~7頁)
「中華炎黃文化研究會常務副會長杜導正在開幕式上的講話」	(7頁)

「北京房山区副区長郭憲英在開幕式上的講話」	(7～8頁)
「季羨林会長在“房山雲居寺石經研究会”成立大会上的講話」	(8～10頁)
「房山区副区長趙振隆在“房山雲居寺石經研究会”成立大会上的講話」	(10頁)
「北京市政協委員・研究員趙其昌在“房山雲居寺石經研究会”成立大会上的講話」	(11頁)
「房山区文化文物局局長鄭樹柏在“房山雲居寺石經研究会”成立大会上作籌備工作報告」	(11～12頁)
「北京石刻芸術博物館賀信」	(12頁)
「全国政協委員・石經研究会顧問李希泌先生賀信」	(12～13頁)
「房山雲居寺石經研究会章程」	(13頁)
「北京房山雲居寺石經研究会有關成員名單」	(14頁)
「学会常務理事金維諾致閉幕詞」	(14～15頁)
「学会副秘書長柴劍虹在閉幕式上作“1992年敦煌吐魯番学国際學術討論会”會議小結」	(15～16頁)
「敦煌吐魯番学北京資料中心研究館員徐自強在閉幕式上的發言」	(16～17頁)
「西北師範大学敦煌学研究所副所長李并成在閉幕式上的發言」	(17～19頁)
「出席“1992敦煌吐魯番学国際學術討論会”代表名録」	(20～22頁)
「出席“1992年敦煌吐魯番学国際學術討論会”外国代表名録」	(22頁)
「出席“北京房山雲居寺石經研究会”成立大会人員名録」	(22～23頁)
「一九九二年敦煌吐魯番学国際學術討論会論文目録」	(23～25頁)
「一九九二年敦煌吐魯番学国際學術討論会籌備組成員与参加工作人員名録」	(25頁)
「英」吳芳思撰／楊淑琴訳「敦煌写本項目取得豐碩成果」	(25～27頁)
辛夷「墾荒拓宇 繼往開来－《中国敦煌学史》読后」	(27～29頁)
鄧文寛「敦煌写本《燕子賦》(甲種)“將軍”釈詞－兼与項楚先生商榷」	(29～31頁)
叶永勝「民間文学重放光輝－評《敦煌曲子詞欣賞統集》」	(32～33頁)
(文辛)「《九州学刊》(敦煌学專期)出版」	(33頁)
荣新江「《敦煌漢文文献》評介」	(33～37頁)
秦輝「評《漢唐烽堠制度研究》」	(38～40頁)
侯幼彬「讀蕭默的《敦煌建築研究》」	(40～42頁)
	(以上)

旅順博物館所蔵品展覧え書

片 山 章 雄

1992年12月12日から約半年間にわたり、京都を初めとする五都市において、旅順博物館所蔵品展が開催されることとなった。主催は京都新聞社・他であるが、この展覧会実現に向けての尽力という点では同社に負うところが多く、事実紙上でも早くから取り上げられてきた。そのうち新疆出土の大谷探検隊将来品に限って気付いた記事の出所をあげれば、1992年1月1日付本紙17版1、30面、同日第5集65～69面、4月2日7面、4月19日第2集1～3、4～5面などで、その時点で十分有益なカラー写真を掲載したこともあったし(上記下線部分)、今回来ていないものが紙上に載ったりもした(上記1月1日1、66面)。

今回の展覧会に際しては、同名の図録が作成されている。執筆は中日の関係者による分担であるが、巻末「Ⅵ 展示品解説」の新疆出土品の部分は、中国側原稿の翻訳と日本側での新稿が混じって

いる。今、展覧とその図録を見て気付いた点すべてをバランスよく記すことは容易でないので、新疆出土品の全般と、近年の関係研究について、文献紹介に重点を置きながら思いつくまま述べてみる。

まず展覧されている大谷探検隊の将来の、トルファン・コータンなどの地域を中心とする新疆出土品37点を実見して気付くことは、現在の旅順博物館の慎重な保管によって、50年前の関東局編纂『旅順博物館図録』（座右宝刊行会、1943年9月25日、[1]+[1]+40頁+128図版）でその一部を窺い知れるその状態のまま、あるいは若干の修復を施した状態が維持されていることである。このことは、旅順所蔵品の現状が十分に鑑賞・研究の対象となることを示しているとともに、今回の出陳も新疆出土品の名品を精選したというから、その意義が小さくないことも十分にわかるのである。

具体的にいくつかについて述べると、例えば図録31・32のトルファン出土の墓表・墓誌、33以降の陶製・木製の罐・碗等、あるいは38以降の多数の俑等、将来品中複数あったものの一群が実見できて、しかもそれらに現在の保管番号以前の様々なラベルや番号が付されていたことは、大谷探検隊将来品の分散過程を追跡する上でも興味深い。ただし、騎馬俑42の人物の左右の腕、馬の左後足・顔面や、43の人物の左腕と馬の頭部などは、全部か表面の欠損が上記の戦中の図録から確認できるので、現状は修復されたものである。大体はよいと思うが、馬の顔・目および尾の原形など、他の類品と比較したくなる場所である。44の木彫蓮華葡萄文建築部材はロブノール出土というが、根拠ないし具体的地点が気になる。45以降の磚・陶製猿も複数あったものである。興味深い47の伏羲女媧図については後述する。48以降の仏画では51の阿弥陀浄土変が将来品の分散過程のカギとなる一点である。第二次探検隊がトユクから得た大暦六（七七一）年のもので、京都に到着した記事、建築専門誌にあった二楽荘陳列の写真、そして現所在という線で繋がることは何回か繰り返し指摘しておいた（『季刊東西交渉』第5巻第1号、1986年3月、『小さな蕾』第230号、1987年9月、『京都新聞』1991年12月30日、等）。53以降のものでは、以前に京都新聞社主催の1992年4月21日のシンポジウムでも指摘しておいたように（同紙5月2日）、やはり54のキジル出土の孔目司帖が注目に値すると思われるが、これも後述する。

旅順は日清・日露戦争以来の因縁の地であるが、それゆえに中国は対外的に開放していない状況にあり、博物館や所蔵品の現状はあまりよくわからなかった。それが1980年代になると、徐々にではあるが、旅順博物館と所蔵新疆将来品に関係する情報が増加することになったのである（以下も頁の下線はカラーを示す）。

全体的な短報としては、

金培鋳「旅順博物館」『黒龍江文物叢刊』1983年第2期（総第6期）、1983年5月、102～103頁。

（旅順博物館）「旅順博物館」『中国歴史学年鑑 1983』人民出版社、1983年10月、432頁。

石嘉福写真／藤堂明保「大谷光瑞の持ち帰ったミイラも静かに眠る、旅順博物館」『世界画報』第53巻第11号、1984年11月1日、30～31頁。

辻康吾他編『遼寧省』（中国省別ガイド③）、弘文堂、1992年9月30日、「旅順博物館」の項（189～190頁、中野謙二執筆）。

などがある。また日本人の回想・見聞記としては、

森修「旅順博物館の思い出」『古代文化』第38巻第11号、1986年11月20日、21～27頁。

〔姚義田訳「在旅順博物館的回憶」『博物館研究』1990年第4期、があるというが未見、国立国会図書館の目録は所蔵と記すが実は欠号である。〕

秋山進午「大谷コレクションを確認／旅順の博物館で／鮮やか「絹の道」発掘品／学術研究もやっと開始」『朝日新聞』（大阪本社版）1988年7月2日夕刊、15面。

などがあった。

この前後、博物館関係者による館蔵品群の具体的紹介や研究も現われていて、一部は日本でも知られるところとなっている。今回の展覧図録所収の、劉広堂「旅順博物館の歴史と活動」の17頁に、「『美術研究』・『芸苑綴(??)英』・『遼海文物学刊』・『中国錢幣』・『文物天地』・『西域研究』などの雑誌」に発表されたとあるが、これはそれぞれ以下の文献を示している。

王珍仁・劉広堂「旅順博物館蔵唐代絹画」『美術研究』1988年第4期、1988年11月15日、78～79頁、54～56頁（図1、3～16）。

金培焜(??)「浅談新疆吐魯番地区的幾幅仏教絵画」『芸苑綴英』第35期、1987年4月、1～3頁、表2・4及び4～5頁（図版）。〔この文献については、上記秋山氏の記事でも言及され、金培焜／秋山進午訳「旅順博物館蔵新疆出土の幾つかの仏教絵画」『仏教芸術』第184号、1989年5月30日、70～78頁、口絵15～17、という訳がある。この一文の原形は、『旅順博物館通訊』総第1期、1986年12月、47～49、41頁、表3、の同氏同題の文章である。なお、『芸苑綴英』第35期と同内容・色違いの表紙で、『旅順博物館蔵画選』という奥付のない出版物もある。〕

王珍仁・劉広堂「旅順博物館蔵新疆出土的圖案方磚」『遼海文物学刊』1991年第1期（総第11期）、1991年5月20日、140～142頁、図版捌。

王珍仁・劉広堂「旅順博物館收藏的唐代陶塑猿猴」『遼海文物学刊』1992年第1期（総第13期）、1992年5月20日、132～135、117頁、図版貳。

王琳「旅順博物館蔵新疆出土錢幣」『中国錢幣』1987年第2期（総第17期）、1987年、26～29頁、図版2頁。

王宇・周一民・孫慧珍「旅順博物館蔵大谷考察隊文物」『文物天地』1991年第5期、1991年9月30日、41～43頁、表2・4（図版）。

王宇・劉広堂「旅順博物館所蔵西域文書」『西域研究』1992年第2期（総第6期）、1992年6月15日、107～110頁。〔維吾爾文は『新疆社会科学』（維文）1992年第3期、151～158頁。〕

王珍仁・劉広堂「新疆出土的“孔目司”公牘析」『西域研究』1992年第4期（総第8期）、1992年12月15日、86～89頁。

以上のうち、王宇・劉広堂「旅順博物館所蔵西域文書」は433件の西域文書に関する初期の情報や現在の文書番号に言及しており、上記に補足すべき王珍仁・劉広堂・孫慧珍「旅順博物館蔵新疆出土の古文書（一）」『新疆文物』1992年第4期（総第28期）、1992年11月、115～121頁では、「20.1480」の番号をもつ20点の吐魯番出土と思われる文書の録文を掲げている。ついでながら補足すると、1981年時点の旅順での写本調査成果として、

蔣忠新「記旅順博物館收藏的梵文《法華經》写本殘片」文化部文物局古文献研究室編『出土文献研究』文物出版社、1985年6月、191～195頁。

があり、早く移管されて北京図書館収蔵となっていた敦煌写経についても、同年北京で作成された『敦煌劫余録統編』があるが、これについては尚林・方広錫・榮新江『中国所蔵「大谷収集品」概況—特別以敦煌写経为中心—』龍谷大学仏教文化研究所・西域研究会、1991年3月、図Ⅱ+52頁、に詳しい。

私も「大谷探検隊中央アジア関係文献目録」復刻『新西域記』別冊、井草出版、1984年11月12日、29～41頁、作成後、旅順博物館所蔵品に関心をもち口頭で報告したこともあったが、それに関連し、姜鎮慶「南朝鮮漢城博物館蔵大谷発掘品目録和旅順博物館蔵大谷文書目録」『中国敦煌吐魯番学会研究通訊』1986年第2期（総第9期）、1986年6月、20～21頁。

という一文もある。

さらに、1988年8月の北京での中国敦煌吐魯番学会では、今回展覧の孔目司帖も含めた旅順所蔵品

が出陳された。これについては、

池田温「中国で脚光あびる「大谷文書」／「敦煌吐魯番学会」に出席して／新たな出土文書と対照／史料価値たかまる」『読売新聞』1988年9月16日夕刊、4版13面。

という紹介があった。これに関連して私も、

「覚書 旅順その他の大谷文書－大谷探検隊将来品（1）－」『吐魯番出土文物研究会会報』第2号、1988年10月1日、6頁。

で旅順所蔵品について由来の若干を述べておいた。そこには不備があったので、ここで文中の「クチャ地域の陶拓関係文書は、大谷1516、1535が龍大蔵と知られるが、総計5点はあったはずである」を、「……大谷1516、1535、8044、8062、8066が龍大蔵と知られるが、総計6点はあったはずである」と改めておきたい。もちろん今回展覧の孔目司帖に現われる「掬拓」も含めてのことである。ついでながらその文書番号は、北京での『敦煌吐魯番資料展覧目録』1988年8月、1頁、では「旅博6091、02」となっているが、これは誤りで、同書の図二の写真からわかるように「20. 1609」が正しい。〔東洋文庫で編集・発行した『吐魯番・敦煌出土漢文文書研究文献目録』1991年3月、ix+12+384頁、ではこれが採用されている。ついでながら上記『展覧目録』中の旅順品以外の誤りとして、3頁2行「菜52」は「菜50」、7頁下10行「新1419」は「新1491」とのこと、発行者による訂正を岡洋樹氏経由で知り得た。〕なお、この文書について、今回の図録の「展示品解説」執筆の礪波護氏には下記の記事がある。

「悠久の歴史とロマン 旅順博物館所蔵品展から 5 キジル発見の官文書」『京都新聞』1992年12月16日夕刊、7版10面。

最後に私の関心からひとつ言及しておきたいものに伏羲女媧図がある。旅順には2点の伏羲女媧図があることは、先掲の1943年の図録からも知られていた（図版64・65）。2点とも絹本であるが、問題は今回出陳されなかった縦225cmという前者の色合いと、今回展覧の後者の全体図であった。戦中の図録の図版65は二つとも部分図で、しかも一方だけがカラーだったのである。今回の出陳のために旅順に赴いた記者（達）によって撮影されたいカラーの全体図が、『京都新聞』1992年4月19日第2集4面に「伏羲女媧の絹画／上半身は人／下半身は蛇」として掲載されたのは、おそらくこれが最初だろうと驚いていた。今回の図録では藤枝晃氏が解説を執筆し、そこで「紙本」とした錯誤については氏自身の

「悠久の歴史とロマン 旅順博物館所蔵品展から 10 伏羲女媧の図」『京都新聞』1992年12月24日夕刊、7版10面。

で訂正がある。私もこの図の復原試案と若干の考察を、短文「旅順博物館所蔵品展の伏羲女媧図」として月刊誌に投稿しておいた。なお、もう1点の伏羲女媧図のカラーは、

「“伏羲女媧”星図」『中華古文明大図集 第二部 神農』人民日報出版社、1992年7月、84頁。

にあることを付け加えておきたい。

以上、旅順博物館所蔵品展を見て気付いたことを述べ、関係文献の紹介を試みた。実は、戦前の同館に関する初期の情報から以後可能な限りの文献を網羅しようと考えたこともあったが、あまりに煩雑になることが予想された。今回言及・紹介できなかった部分は別稿において扱うこととしたい。

事務局（連絡先） 〒182 東京都調布市国領町5-19-14

荒川正晴方

TEL 0424(81)4633

吐魯番出土文物研究会 (The Research Society for Turfan Relics)